「盟友と相撲 ― 我がターニングポイント」

㈱テイエルブイ　特別常任理事　松澤（まつざわ）　昭夫（あきお）

若かりし頃の松澤さん（早大相撲部３年）

住　所: 加古川市野口町長砂881
ＴＥＬ: 422-1122
営業内容: 流体制御･計測機器製造販売

誰しも自らの人生を振り返ってみると、ああ「あの時」がターニングポイントだったと思える瞬間があるものです。

それが人生の早い時期なのか、遅い時期かは個人差がありますが、我が人生におけるターニングポイントは、十五の春に盟友と出会い相撲を選択した瞬間であったと思っています。

文武両道を目指し夢と希望を胸に加古川東高の門を潜ったのは今を去る56年前の１９６６年のことでした。

当時、相撲部はあった（部員不足のため約四半世紀前に廃部）ものの興味関心はなく、叔父の薦めもあり柔道部に入部し日々基本訓練に明け暮れていました。

そんな中、身長180㎝、体重は100㎏を優に超える巨漢で中学時代に県大会を制覇し、既に相撲部に入部していた田村広一くん（故人・元高砂市長）とたまたま同じクラスになり、80㎏強と大柄であったことから部員仲間を探していた彼の目に留まり、大きいのがいるとの連絡を受けた主将以下数名の上級生が休憩時間になると連日教室に現れては私を取り囲み、今で言うパワハラめいた脅しに近い勧誘を受け、怖さと生来の気の弱さも手伝って嫌とは言えず、取り敢えず体験入部してみることになりました。

いざ廻しを締める段になると人前で裸になることの抵抗感と恥ずかしさから、なかなか環境に馴染めず、逃げ場として柔道部に籍は置いたままにしていました。

そうこうするうちに6月になり、試合での所作も全く知らないままに長田神社で開催された兵庫県新人相撲大会に出場し、無手勝流の小手投げ一本槍で勝ち進み、まさかの個人ベスト８に入りました。

この時、今でも鮮明に記憶していますが相撲の面白さとともに自分への適性そして可能性を実感し、相撲一本に絞り、やるからには県レベルではなくインターハイに出場し頂点の高校横綱を目指して努力精進しようと決意した瞬間でした。

それからは、稽古で足裏の皮が捲れた傷口に「消毒や」と言って粗塩を上級生からすりこまれ悶絶して涙を流す等の日々を過ごす内一年が過ぎ、廻しも体に馴染み体つきも相撲選手らしくなってきた2年生の春には近畿大会団体優勝に貢献し、以降は個人・団体ともに念願のインターハイや相撲どころ金沢や宇佐での全国選抜大会にも出場、残念ながら個人・団体ともにベスト８が最高で頂点を極めることはできませんでしたが、１９６８年秋の第23回福井国体に田村くんとともに兵庫県代表選手に選ばれ出場し、高校の部団体優勝の一翼を担うことができました。

その後、大学でも共に相撲部で切磋琢磨し、卒業後に進んだ道は違いましたが私は縁あってテイエルブイにお世話になり間もなく半世紀に亘った職業生活の卒業を迎えます。

70年の人生を振り返り今改めて思うのは、あの時にターニングポイントの瞬間があったればこその我が人生であり、盟友と相撲との出会いに感謝、感謝です。

高校２年生の時、近畿高等学校相撲大会において団体優勝。
右から３人目が松澤さん、一番右が田村さん